

8日 金曜

へブル



5:1 大祭司はみな、人々の中から選ばれ、人々のために神に仕えるように、すなわち、ささげ物といけにえを罪のために献げるように、任命されています。

5:2 大祭司は自分自身も弱さを身にまとうているので、無知で迷っている人々に優しく接することができます。

5:3 また、その弱さのゆえに、民のためだけでなく、自分のためにも、罪のゆえにささげ物を献げなければなりません。

5:4 また、この栄誉は自分で得るのではなく、アロンがそうであったように、神に召されて受けるのです。

5:5 同様にキリストも、大祭司となる栄誉を自分で得たのではなく、「あなたはわたしの子。わたしが今日、あなたを生んだ」と語りかけた方が、それをお与えになったのです。

5:6 別の箇所でも、「あなたは、メルキゼデクの例に倣い、とこしえに祭司である」と言っておられるとおりです。

5:7 キリストは、肉体をもって生きている間、自分を死から救い出すことができる方に向かって、大きな叫び声と涙をもって祈りと願いをささげ、その敬虔のゆえに聞き入れられました。

5:8 キリストは御子であられるのに、お受けになった様々な苦しみによって従順を学び、

5:9 完全な者とされ、ご自分に従うすべての人にとって永遠の救いの源となり、

5:10 メルキゼデクの例に倣い、神によって大祭司と呼ばれました。

5:11 このメルキゼデクについて、 私たちには話すことがたくさんありますが、 説き明

かすことは困難です。あなたがたが、聞くことに対して鈍くなっているからです。

5:12 あなたがたは、年数からすれば教師になっていなければならないにもかかわらず、神が告げたことばの初歩を、もう一度だれかに教えてもらう必要があります。あなたがたは固い食物ではなく、乳が必要になっています。

5:13 乳を飲んでいる者はみな、義の教えに通じてはいません。幼子なのです。

5:14 固い食物は、善と悪を見分ける感覚を経験によって訓練された大人のものです。

イスラエルの大祭司は、キリストのひながたにしか過ぎません。人間の大祭司は自分も罪がありますし、また動物をささげます。しかし本当のとりなしてすなわち永遠の大祭司であるイエス様は、罪がなく、ご自分をささげられたのです。

それを知っている私たちは、もっとイエス様に感謝して、恵にお返しすることができるのではないのでしょうか。「あなたがたは年数からすれば教師になっていなければならないにもかかわらず、神のことばの初歩をもう一度だれかに教えてもらう必要があるのです。」などと言われないうに、恵を感じる霊的センサーを大人にしたいと思えます。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

